

教会

福音に集う

パート 1



もくじ

- I. ガイドの使い方
- II. はじめに
- III. 使徒 17:16-34 → 聖書的な教会は、伝道する教会
- IV. マタイ 28:16-20 → 聖書的な教会は、互いを弟子訓練するコミュニティー
- V. 詩篇 96:1-13 → 聖書的な教会は、礼拝する教会
- VI. 使徒 4:23-31 → 聖書的な教会は、祈る教会

ガイドの使い方

グレイスシティチャーチでは、C.O.M.A. (C=文脈、O=観察、M=意味、A=適用) の手法を用いて聖書本文理解に取り組んでいます。その中で、「ディスカッションのための質問」(理論に焦点を置く)ではなく「適用のための質問」(参加する人が個人的に聖書の中心的なテーマと対話する)が適切だと考えています。

文脈 →

1. 周囲の節、段落、章、出来事などに注意を払い、箇所が聖書中の特定の書の文脈にどのように当てはまるかを考えます。
2. 聖書全体の大きな物語の中で、この箇所がどのように当てはまるか、(いかに神がイエス・キリストを通して民を救い、その民がイエスのご支配のもとで、イエスの代理人として生きるようになったか)に注目します。

観察と意味 →

3. 聖書本文を注意深く観察しましょう。例えば、「なぜなら」「もし」「ですから」などの接続詞、繰り返し、対話、物

語、旧約聖書の引用などの細部に注意を払います。

4. 聖書本文の意味を理解するためには、なぜこれを書いたかと、著者の目的や意図を見極める必要があります。

5. 以下のような質問をしてみましょう：

- 誰が、誰に向かって書いているのか？
- 作者と読者の状況は？
- 取り組むべき問題が提起されているか？
- 繰り返しのテーマや、すべてをつなぐ1つの概念はあるか？

適用 →

6. 神のことばを心に適用します。単に状況や行動に対処するだけでなく、「心」に向かって良い質問をしましょう。例：なぜ私たちはそのようなことをするのか？私たちは本当は何を望んでいるのか？
7. 常に福音を適用に結びつけましょう。例：キリストを知ることとは、神への従順にどのような違いをもたらすか？
8. 神について、自分について、キリストの救いについて、教会について、世界についてなど、その箇所が私たちに何を教えているかを尋ねてください。

A blurred photograph of a crowd with hands raised, overlaid with a blue gradient. The image is dark and out of focus, showing several hands reaching up. The text 'はじめに' is overlaid in white on the lower left side.

はじめに

はじめに

イエス・キリストが私たちをご自身のもとに呼び寄せる時、ご自分の民(教会)へと招いてくださいます。しかし、「教會的」な考え方をしっかり持っている信徒は多くありません。私たちは教會の繁栄のために祈ることも、その美しさを評価することもなく、ただ厄介ごとにも耐えようともがきます。この現状を改善するために、「教會」シリーズは私たちを基本に立ち返らせ、教會(教會論)についての健全な聖書的理解を築こうとするものです。

健全な教會論

イエスを愛し、イエスに従うということには、イエスの教會を愛し、尊ぶということが含まれます。しかし、教會を尊ぶためには、教會とは何なのか、なぜ重要なのかを知る必要があります。グレイシティを自分の教會としていても、日曜礼拝以外では教會での有意義な関わりを持たない人たちもいます。そのような人たちがグレイシティと、イエス・キリストの弟子作りのために私たちが取り組んでいることにコミットしていく(心を尽くしていく)ことを願っています。もしグレイシティではないとしても、ぜひ他の教會にコミットしてください。健全な教會論は、地域教會への健全なコミットメントにつながります。

毎週一回の集まりだけでは、イエス・キリストの弟子として豊かに成長することは難しいでしょう。有意義な教會とは、日曜礼拝への出席だけではありません。

ほとんどの神学者は、教會の使命は「弟子を作ること」だと言いきるでしょう。この短い一文によって、教會だけにできることの核心部分(人々をキリストへの信仰に導くこと)が守られています。しかし、伝道し、他の人々を教會に連れてくるためだけの訓練をしたのであれば、教會はその人を弟子訓練したことにはなりません。真の意味で弟子訓練されたのであれば、その人は隣人を愛し、正義とあわれみを行い、信仰と仕事を統合していこうとする心の動機や実践的な手段をも持ち合わせているはずです。これらの分野は、明確に信徒一人一人に与えられた聖書的な仕事の一部です。それにも関わらず、教會の仕事は弟子を作ることだと主張し、その他の分野で弟子が成長することの手助けをしない人たちもいます。

他の人々を教會に連れてくるためだけの訓練をしたのであれば、教會はその人を弟子訓練したことにはなりません。

大きな物語の中での位置付け

神は歴史の中で、個人、国家、民族を通し、様々な方法で世界に働きかけてきました。神が現在行っている働きの焦点は、教会に置かれています。聖書の中で、イエス・キリストを自分の人生の主であると認めた人々から始まったことは、今日も教会として続いています。

イエスは教会を建て上げているだけではありません。教会こそ、イエスがこの世界に働きかけるための最も重要な手段なのです。教会が神の手段であるというこの考え方は、時に懐疑的な目で見られることがあります。世の様々な制度を揺るがしてきた何千年にも渡る変化の中で、教会もまた混乱に見舞われてきました。教会の目的が不確かであるが故に、ある人々は教会を世界における神の活動の中心とする考えを否定し、脇道にそれる結果となったのです。教会生活のあり方の中には、神のご性質や目的を反映することに失敗したものがあることは事実です。しかし、イエス・キリストに従う者は、神への忠誠を公言すると同時に、神の教会を否定することはできません。

教会を取り巻く不確かさの多くは、教会リーダーたちがイエスご自身と、イエスの示す教会生活の模範から遠ざかっていることに起因しています。教会の本質、ミニストリーの役割、教会の存在意義に関する疑問は、神のことばに立ち返ることでしか答えを得られません。そこで、このミニ説教シリーズでは聖書の中で、聖書的教会と結び付けられている4つの事柄を取り上げます：

- 聖書的な教会は、伝道する教会
- 聖書的な教会は、互いを弟子訓練するコミュニティー
- 聖書的な教会は、礼拝する教会
- 聖書的な教会は、祈る教会



伝道

使徒 17:16-34

使徒 17:16-34

伝道

聖書箇所

使徒 17:16-34

大きな目的

イエス・キリストが私たちをご自身のもとに呼び寄せる時、ご自分の民(教会)へと招いてくださいます。しかし、「教会的」な考え方をしっかり持っている信徒は多くありません。私たちは教会の繁栄のために祈ることも、その美しさを評価することもなく、ただ厄介ごとに耐えようともがきます。この現状を改善するために、「教会」シリーズは私たちを基本に立ち返らせ、教会(教会論)についての健全な聖書的理解を築こうとするものです。

概要

アテネに到着したパウロは、町にあふれる偶像を目にして、教える伝える思いに駆り立てられました。彼は毎日、会堂や市場に行っては教えました。ある日、エピクロス派とストア派の哲学者たちはパウロをアレオパゴスに連れて行き、イエスの生涯をよく知らない彼らに向けてメッセージを説明してほしいと頼みました。パウロは彼らに、石造りの偶像や偽りの神々の祭壇がある中で、唯一の生ける、真の神について説き始めます。この神は、彼らの想像の中にしか存在しないものでした。

パウロは、自分が仕えている神は天と地を造り、人が建てた神殿には収まりきれないほど偉大な神であると告げました。また、神は全人類の父であり、命を与え、支えている方であると説明しました。そのような偉大な父の子孫として、パウロはアテネの人々に、「神である方を金や銀や石のようなもの」つまり人間の想像力によって作り上げられたものだと考えるべきではないと伝えました。そして、審判の日が来るので悔い改める必要があると説明しています。アテネの人々の中には、パウロのメッセージをあざ笑う者もいれば、興味津々の者もいましたが、数人が信徒となりました(ディオヌシスとダマリスを含む)。

観察と意味

1. なぜパウロは心に憤りを覚えたのですか (16節)? 会堂ではユダヤ人や神を敬う人たちと、市場ではそこに居合わせた人たちとパウロは何をしていましたか (17節)?

パウロのアテネでの宣教は、市場でアテネの哲学者たちに出会ったことから始まりました (16-21節)。この出会いがアレオパゴスでの、より正式なプレゼンテーションにつながりました。アレオパゴスの評議会は、アテネの市民生活と宗教生活を支配する権威を持つものでした (22-34節)。

2. パウロが祭壇で見つけた碑文は何でしたか (23節)? このs知られていない神について、パウロはまず何を語りましたか (25-26節)? 天地創造と神の主権から始まり、パウロは神の臨在と知りうる方であるということについて話を続けています。パウロはこれらの真理をどのような言葉で表現していますか (27節)?

旧約聖書の思想に根ざしていると同時に、パウロの教えはギリシアの哲学者たちの考えや思想と対話することで、彼らの心に訴えかけました。

3. 「私たちは神の中に生き、動き、存在している」「私たちもまた、その子孫である」(28節)という言葉は誰が書きましたか? パウロは、この2つの言い回しからどのような結論を導き出しましたか (29節)? パウロは、最後の審判とイエス・キリストの復活について語ることで話を終えています。パウロはこれらの真理をどのように表現していますか (30-31節)?

パウロは異教の詩人たちを肯定的に引用していますが、彼らが書いたであろうその他の言葉を承認しているわけではありません。最初の引用は、ゼウスへの賛歌からです (パウロはテトス1:12でも同じ賛歌を引用しています)。2番目の引用は、ストア派の詩人アラトゥス (紀元前315-240年) の詩『ファニオメナ』からの引用です。

4. パウロの福音宣教に対する3つの異なる応答は何でしたか (32-34節)? パウロの話を聞いた人のうち、誰が信徒になりましたか (34節)?

死からよみがえったイエスのことを聞いて、パウロは愚か者だと思う人々もいました。彼らはパウロをあざけりました。他の人々は、パウロからもっと話を聞きたいと考えました。パウロに加わったのは一部の人々だけでした。パウロの宣言に対するこれらの応答は、今日私たちが受ける応答と同じなのです。

適用

- 周りの偶像礼拝によって、心に憤りを感じますか？他の人々の偶像礼拝をよりよく理解することは、彼らへのあわれみを深めるためにどのように役立ちますか？
- 人々が人生で経験している虚しさを表現している詩人や歌人は誰ですか？贖いをテーマにした映画を観たことがありますか？

教会として私たちは、対立ではなく一般恩寵（分け隔てのない恵み）から出発し、¹伝道をイベントとしてではなくプロセスとして捉え、イエスとその復活を中心としていきたいと考えています。

- 伝道する時に、歌の作者や有名な映画で使われている一般的な表現から出発し、対決の姿勢から出発しないことは、あなたにとってどのような意味を持つのでしょうか？伝道をイベントとしてではなく、プロセスとして捉えることは、どのように役立つのでしょうか？イエスとその復活をより深く理解するにはどうすればいいのでしょうか？

聖書的な教会は、 伝道する教会

¹ By common grace, we mean the undeserved blessings God gives to all people, both believers and nonbelievers. John Murray defined common grace as "every favour of whatever kind or degree, falling short of salvation, which this undeserving and sin-cursed world enjoys at the hand of God."

弟子訓練

マタイ 28:16-20

マタイ 28:16-20

弟子訓練

聖書箇所

マタイ 28:16-20

大きな目的

イエス・キリストが私たちをご自身のもとに呼び寄せる時、ご自分の民(教会)へと招いてくださいます。しかし、「教会的」な考え方をしっかり持っている信徒は多くありません。私たちは教会の繁栄のために祈ることも、その美しさを評価することもなく、ただ厄介ごとに耐えようともがきます。この現状を改善するために、「教会」シリーズは私たちを基本に立ち返らせ、教会(教会論)についての健全な聖書的理解を築こうとするものです。

概要

復活の主であるイエスは従ってくる者たちに、福音を宣べ伝えることを通して、あらゆる人々を弟子とするように教えました。復活にあって、イエスは天と地における絶対的な権威を行使します(これはイエスの神性を示すものです)。その権威は天の父から与えられたものであり、このことはイエスが父に従い続けていることを証ししています。

「弟子としなさい」(主であり師であるイエスに自分自身を委ねるよう、個々人を招くこと)という命令は、大宣教命令の中心を明言しています。ギリシャ語で「行く」「バプテスマを授ける」「教える」と訳されている単語は、弟子作りのプロセスを説明しています。

イエスがイスラエルで行った宣教は、後に地上のすべての人々(ユダヤ人と異邦人の両方を含む)に福音を宣べ伝える出発点となるものでした。「教え」は、イエスの弟子たちがキリストに似た者として絶えず変えられていくための手段です(ローマ8:29、2コリント3:18参照)。イエスは、弟子訓練に最も重要な要素「神が私たちとともにいる」という事実で締めくくっています(マタイ1:23参照)。

観察と意味

1. 誰がガリラヤに行きましたか (16節)? 誰が弟子たちに現れましたか (17節)? イエスが現れたことに対しての2種類の応答は何でしたか (17節)?

イエスは11人の弟子たちに語りかけています。弟子たちはイエスを礼拝しましたが、中には疑う者もいました。イエスは、礼拝する者と疑う者の両方を送り出したことに注目しましょう。

2. イエスはご自身について何と言いましたか (18節)?
3. イエスは弟子たちにどこへ行くように伝えましたか (19節)? イエスは弟子たちに何を作るように言いましたか (19節)? 弟子たちはどのような活動をするように言われましたか (19-20節)?

世が私たちのところにやって来るのを待つではありません。私たちが世に出て行くのです。「あらゆる国」とは、「あらゆる種類の人々」を指す一般的な言葉です。それは国だけでなく、私たちのコミュニティにあるすべてのサブカルチャーを指しています。「弟子」という言葉は「見習い」や「学習者」を意味します。これは、イエス・キリストに従おうという自発的な意志を示すものです。

「守る」の原語には、「果たす」や「保つ」といった意味があります。イエスが「もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」(ヨハネ14:15)と語った時と同じ言葉です。これは、人々に聖書の勉強をし、優れた釈義を身につけるように教えなさい、と言っているわけではありません。イエスが命じたことをすべて守るように教えなさい、と私たちに語っているのです。

4. イエスは弟子たちにどのような慰めのことばを残して行きましたか (20節)?

再臨の日まで、イエスは教会を通して働き、人々を信仰、洗礼、従順へと導きます。

適用

- あなたにとっての弟子作りの次のステップは何ですか?
- 弟子作りの最も重要な道具は、あなたの人生そのものです。あなたがイエス・キリストに従う中で、どのように他の人に自分を真似るよう伝えたらいいのでしょうか?
- 下の表の「弟子訓練できる人」と書かれた行を用い、他の人を弟子訓練する時の自分の気持ちを一番よく表しているのはどちらのモデル(「頑張るモデル」または「信仰モデル」)かを考えてみましょう。

頑張るモデル (最悪の場合)

信仰モデル (しっかり機能している場合)

主なフォーカス	振る舞い(器の外側)：実の部分だけを変える 気を引き締める	信仰(器の内側)：根の部分を根本的に変える。 心からの従順
主なゴール	外見上の聖さ、自己訓練	愛 (1テモテ1:5、ガラテア5:6、マタイ22:40) 神への愛、他者への愛
力	人間の努力(ガラテア3:3)、道徳的意志の力 「がんばって従う」。	イエスへの信仰により聖霊を与えられる。 「神を信頼しているから従う」
原動力	立ちあがるう、もっと努力しよう、コミットしよう。 「自分はダメだ」	信仰が深まる、委ねる、信頼する。 「私は神の子ども」
原則	自分の従順さによって神に認められ、神との関係を持てる。	私はすでに神に認めら関係を持っているから従う(ヨハネ15:5)。
動機	義務、罪悪感、プライド 「正しく良い人間になるために決意した！」	愛「神の栄光に心が燃えている」
聖さ	命令を守る。神のためにより多くのことを、より良く行う。	福音をより深く信じる時に、イエスが愛したように愛せるようになる(ヨハネ13:34、ローマ13:8f)。
肉(罪)への対処	自己訓練によって自分の肉に勝利できる、はず。	自分の肉は決して力を失わないことを知っているが、福音の信仰はそれに打ち勝つ。
弟子訓練する人	成功や能力の模範とならなければならない。 力があり、自己訓練ができる人に見えなくてははいけない。	悔い改めの模範を示している。「キリストの力が私をおおうために、喜んで自分の弱さを誇りましょう」(2コリント12:9)
弟子	私たちはより多くのことを、より良く行っている。 完璧で理想的な模範	私は罪人のかしらなので、常に悔い改めている。同時に、信仰を通して愛し、大胆に、恵み深く生きることができる(1テモテ1:15)

グレイシティチャーチでどのように弟子作りをしているかを説明する公式です：

福音+コミュニティ+時間

- 福音は私たちの生活の中心です。
- 誰も孤立して成長・成熟できません。
- 聖化はすぐに起きるものではなく、時間が必要です。

私たちの弟子作りの戦略は：

人々が、福音に満ちたコミュニティに
時間をかけて浸ることです

これは簡単なことのように聞こえますが、私たちはいとも容易く他のことに気を取られてしまいます。子どもたちのためのミニストリーやミッショナルコミュニティ、教会リトリートは、弟子を作るために存在しているのです。私たちは、なぜそれらを行うのかという点を見逃さないようにする必要があります。

聖書的な教会は、 互いを弟子訓練する コミュニティ

A blurred background image showing several hands raised in a gesture of prayer or worship. The hands are out of focus, creating a sense of movement and devotion. The overall color palette is a mix of warm and cool tones, with a teal gradient on the right side.

礼拝

詩篇 96:1-13

詩篇 96:1-13

礼拝

聖書箇所

詩篇 96:1-13

大きな目的

イエス・キリストが私たちをご自身のもとに呼び寄せる時、ご自分の民(教会)へと招いてくださいます。しかし、「教會的」な考え方をしっかり持っている信徒は多くありません。私たちは教會の繁栄のために祈ることも、その美しさを評価することもなく、ただ厄介ごとに耐えようともがきます。この現状を改善するために、「教會」シリーズは私たちを基本に立ち返らせ、教會(教會論)についての健全な聖書的理解を築こうとするものです。

概要

この詩篇は、神がすべての被造物を統治する王であることを讃え、そのような神をあらゆる人々が愛し、礼拝すべきと語っています。この詩篇には3つのセクションがあり、それぞれが命令で始まっています：

- 歌え(1節)
- 帰せよ(7節)
- 言え(10節)

これら3つの節は、異邦人について言及しています：

- 「全地」と「あらゆる民」(1-6節)
- 「民の諸族」と「全地」(7-9節)
- 「国々」と「地」(10-13節)

神は、すべての人々を祝福し、人々が心の底で求めている唯一まことの神についての知識をもたらす手段となるようにイスラエルを召しました。この詩篇は、イスラエルの民の世界観と役割における使命を明確にしています。

目的と意味

1. 詩篇の著者は、礼拝に関する活動をどのような動詞で表現していますか (1-3節)? 著者は、私たちがこれらの活動にたずさわる理由は何だと言っていますか (4節)?

この詩篇には、「歌う」「ほめたたえる」「告げる」「語り告げる」といった動詞を用いることで、礼拝が活動的なものであることを示しています。神は大いなる方であり、大いに賛美される方だから、私たちはこれらのことをするのです (4節)。

2. 著者は、人々が崇拝する他の神々をどのように描写していますか (5節)? これらの神々と唯一まことの神とを対比する時、著者は主について何を語っていますか (5節)?

「栄光」という言葉は「重みや影響力のある」という意味です。この詩篇が書かれた当時、他の神々といえば異教の神々でした。現代では、他の神々とはお金、権力、自由のようなものを含みます。クリスチャンの礼拝では、他の神々を唯一まことの神と並べ、どちらがより重く、影響力があるかを人々に考えてもらいます。

他の神々には、人の人生のあらゆる局面を支える力はありません。対照的に、唯一まことの神は「天をお造りになった」方です (5節)。

3. 誰が主に栄光と力を帰すべきですか (7節)? 栄光を帰し、神の大庭に入る他に、詩篇の著者は人々に何をどのように呼びかけていますか (8節)? 誰が主を礼拝し、御前でおののくべきですか (9節)?

神はすべての国々、すべての民が、神の善意を知り、礼拝することを望んでいます。私たちが御名にふさわしい栄光を神に帰す時 (8節)、隣人や同僚たちにも神に栄光を帰すことに加わるように招きます。

4. 森の木々が主の御前で喜び歌うのはなぜですか (12節)?

もし、あなたが不当な扱いを受けたり、利用されたことがあるなら、主が「地をさばくために来られる」 (13節) という良い知らせがあります。これは、私たちが受けた害には報復があり、なされた悪は裁かれ、人生の傷は癒されることを意味します。クリスチャンの礼拝はこの日を待ち望んでいます。

神は地を裁きに来ますが、裁かれる人々には信徒たちも含まれます。私たちに対してなされた過ちと、私たちによってなされた過ちの両方を、神は裁きに來るのです。しかし、イエスはその民の代わりに立ち、彼らを待ち受ける裁きを自ら引き受けました。イエスは信徒たちにご自身の義を着せたので、彼らは來たる将来を祝い、待ち望むことができるのです。

信徒である私たちは、裁きの日に私たちを待ち受けているものが十字架の上のイエスに降りかかったことを知っているのです。信仰の確信をもって礼拝します。裁きの日は栄光ある和解の日となるので、私たちはもはや裁きを恐れません。

適用

- あなたが教会に來る一番の理由は、横のつながりのためですか？それとも、神に栄光を歸すためですか？
- 毎週教会に來ていると、礼拝がルーティーンのように感じられることがあります。どのように礼拝のビジョンを新たにし、強めることができますか？
- どのような準備をして日曜礼拝の備えたら良いでしょうか？

日曜礼拝の流れを考え、話し合う時間を
持ちましょう（下図参照）。

聖書的な教会は、 礼拝する教会

順序	要素	目的
<p>慕う</p> <p>福音はまず、神がどのような方か（ご性質や特質）を認識できるようにすることで、心に影響を与えます。</p>	<p>歓迎</p> <p>礼拝への招き</p> <p>歌</p>	<ul style="list-style-type: none"> 礼拝のために心を準備します（来会者に「ウェルカムカード」のことを伝える）。 神は、神を礼拝するようにと私たちを招いています。私たちは神の偉大さを思い、神のご性質に心を向けることによって応答します。 神がどのような方かを賛美し、礼拝することによって始めます。
<p>告白</p> <p>神の聖さの栄光を私たちが本当に理解する時、自分たちの実態を知り、神を必要としていることを告白します。</p>	<p>告白と確信の祈り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福音の真理は、私たちの罪と継続的な悔い改めの必要性を明らかにすると同時に、イエスが十字架上で成し遂げた御業による神の赦しを保証します。人々に福音の真理は、私たちの罪と継続的な悔い改めの必要性を明らかにすると同時に、イエスが十字架上で成し遂げられた御業による神の赦しを保証する。キリストが自分の罪よりも大きな存在であることを感じてもらい、神への不信仰や、聖霊が心に示すことを悔い改めるように人々を導きましょう。自分に対する自信ではなく、キリストにある確信をもって祈るということを実践しましょう。
<p>確信</p> <p>福音は、神が与えてくださる恵みを私たちに確信させるので、</p>	<p>歌</p> <p>証し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福音がもたらす確信に応答する歌 神のあわれみを確認した後は、聖句と証しを通して人々が感謝を表す機会を設けます。a) 自分のことではなく、神がしたことを証します。b) 他の人も分かち合いをできるように、1~2分程度とします。c) 教会メンバーだけが前に出ることができません。
<p>感謝</p> <p>私たちの心は感謝をもって応答し、</p>	<p>献金</p>	<ul style="list-style-type: none"> 神がすべてのものを備え与える神であることと、私たちの役割は神が私たちに与えたものを管理することであると認識します。
<p>嘆願</p> <p>また、へりくだって助けを求めます。これらは神にふさわしい礼拝です。</p>	<p>牧会的祈り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 神の恵みを感謝し、私たちの信頼が神にあることを再認識したら、自分や他者の人生において、さらなる恵みを求めるように人々を励まします。私たちのうちで、また、この世において、神の御国が前進するように祈ります。教会や、特定の教会メンバー、私たちの都市の必要を神が満たしてくださるように求めましょう。
<p>教え</p> <p>助けを求める私たちに、神はみことばで応答します。</p>	<p>お知らせ</p> <p>説教</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歓迎する文化を発展させ、礼拝後もお互いを高め合うことができるように、新しく来た人々と出会う機会を提供します。 みことばを通して、神のからだを教え、高めます。説教は神のみことばの解説、釈義である、神が私たちへ与える恵みの贈り物です。
<p>祝福</p> <p>私たちは神の教えに耳を傾けます。それが私たちに与えられた使命であり、神のために生きることによって祝福が約束されてことを知っているからです。</p>	<p>歌</p> <p>応答</p> <p>祝祷</p>	<ul style="list-style-type: none"> 神がご自身の目的、民、被造物へコミットしてくだっていることに焦点を置く歌 神のそばに身を置き、説教についての個人的な応答をするために、歌の後に静まりの時を設ける。 世に出て行き、福音に応じて生きるよう人々を招きます。そのような生き方を可能にする恵みを思い起こさせましょう。



祈り

使徒 4:23-31

使徒 4:23-31 祈り

聖書箇所

使徒 4:23-31

大きな目的

イエス・キリストが私たちをご自身のもとに呼び寄せる時、ご自分の民(教会)へと招いてくださいます。しかし、「教会的」な考え方をしっかり持っている信徒は多くありません。私たちは教会の繁栄のために祈ることも、その美しさを評価することもなく、ただ厄介ごとにも耐えようともがきます。この現状を改善するために、「教会」シリーズは私たちを基本に立ち返らせ、教会(教会論)についての健全な聖書的理解を築こうとするものです。

概要

ペテロとヨハネは仲間のクリスチャンたちのもとへ戻り、最高法院(サンヘドリン)が福音伝道を禁じていることを報告しました。それに応答し、クリスチャンたちはさらに大胆に証しする力を求め、祈りました。

その祈りの中で信徒たちは、神の主権と人間の責任の両方を確信しています。彼らは、悪意のある拒絶、不当な告発、誤審、不法な鞭打ち、あざけり、そして十字架刑のすべてが、神によって定められたものであると捉えています。しかし同時に、これらの行いをした人たちを道徳的に「律法を持たない人々」(使徒2:23、36参照)とみなしています。彼らは自らの悪行について責任があり(使徒3:13-15参照)、「悔い改める」必要がありました(使徒2:38、3:19参照)。彼らの祈りには、人間の責任を認めることと、状況を導くことのできる神の能力への信頼、その両方が含まれています。

「大胆さ」への祈りは、サンヘドリンの命令に背く決意を示しています。彼らは、自分たちを迫害する者たちに対してではなく、自分たちが忠実な証し人となるように祈りました。

観察と意味

1. サンヘドリンによって釈放された後、ペテロとヨハネはどこへ向かいましたか (23節)? 信徒たちは彼らの報告にどのように応答しましたか (24節)?

神の民が困難や混乱を経験する時、彼らは祈ります。状況への対処 (横) から始めるのではなく、「主権者である主」と呼びかけ、祈り (縦) から始めています(24節)。

2. 祈りの中で、信徒たちは自分たちが直面している迫害をどのように捉えていましたか (24-26節)? 信徒たちは詩篇をどのように用いましたか (25-26節)?

この祈りの中で、弟子たちは神が神であられるを賛美し、神が語ったことを思い起こす方法として、聖句 (詩篇2篇) を引用しています。祈りの主な目的の一つは、神がどのような方であるかを思い起こすことです。私たちは、神にただ願い事リストを伝えるためだけに祈るではありません。祈りとは、私たちの人生を神のご性質に順応させていく方法なのです。

3. イエスに対して企てられたこと、行われたことのすべてにおいて、神の御手はどのように働いていましたか (27-28節)? 神はイエスの敵を滅ぼし、打ち負かすためにどのように取り計らいましたか (28-30節)? クリスマンたちは神に何を願いましたか (29-30節)? 信徒たちは、どのようにして神の働きを行うことができますか (30節)?

信徒たちは、王たちや支配者たちが神の油注がれた者に逆らって集まった、と神が語った箇所を読み、これが数週間前にエルサレムで起こったことだという結論に至りました。彼らは、イエスが十字架につけられた時にそれが起きた、ということだけでなく、神はこれらすべてを通して働く計画をお持ちだ、ということも信じています。キリスト教の外においては、ほとんどの祈りは取引的なものです。大多数の宗教では、神に自分たちの計画を達成してもらうための手段として祈りを用いています。キリスト教の祈りは、神がすでに計画を持っており、すでに私たちの世界の中で働いていることを覚えるものです。

4. 信徒たちの祈りの効果はどうでしたか (31節)? クリスマンたちは祈り終えた後、何を体験し、何をしましたか (31節)?

特に勇気が与えられることを神に願ったところ、御霊により、信徒たちは大胆に語るできるようになりました。

適用

- 何があなたを祈りから遠ざけていますか？忙しいこと以外に、祈りによって神に向き合うことを妨げるものは何ですか？
- 何が私たちを祈りから遠ざけていますか？ミッショナルコミュニティグループとして（そして教会として）、私たちが共に祈ることを妨げているものは何ですか？
- 神は私たちの間で、また私たちを通して、何をしたいと願っているのでしょうか？もし私たちがより深い飢え渴きをもって神の臨在を求めるようになったら、何が起こるのでしょうか？

聖書的な教会は、 祈る教会

神よあなたは私の神。
私はあなたを切に求めます。
水のない衰え果てた乾いた地で
私のたましいはあなたに渴き
私の身もあなたをあえぎ求めます。

詩篇 63:1

<https://www.gracecity.jp>

